

## 地域連携の充実

<主要施策> (1) 保護者、地域、行政が連携した総がかりの教育の推進	評 価
<主要事業> ① 「見附 子育て 教育の日」「スクールアカウンタビリティ」 ② 「わくわく体験塾」の実施 ③ 「土曜科学教室」の開催	B

目的	○ 「教育の日」に「スクールアカウンタビリティ」を開催し、市立学校の特色ある教育活動や成果等を紹介し、総がかりの教育を推進する気運の醸成を図る。 ○ 学校、地域、市民、行政が連携・協働し多様な体験活動を提供し、子どもの学ぶ意欲や社会性等をはぐくむ。															
目標	○ 「スクールアカウンタビリティ」の内容を充実させ、参加者数の増加を図る。 ○ 「わくわく体験塾」における市民講座の増加を図る。 ○ 土曜日の体験活動の充実を図る「土曜子ども科学教室」を実施する。															
執行の状況及び成果	<p>1 「見附 子育て 教育の日」「スクールアカウンタビリティ」 見附の明日を担う子どもを育むため、家庭、地域、学校、教育行政がそれぞれの役割を果たしながら、熟議と協働による取組を進めています。市では、平成25年度に11月の第3日曜日を「教育の日」として制定し、その日の午後、「教育の日」の中核的行事として、見附市内各学校の地域との協働の取組や成果等を紹介する「スクールアカウンタビリティ」を実施しています。</p> <p>【成果】参加者数、アンケート回答数は年々増加し、アンケート結果からも高い評価を得ています。</p> <p>&lt;スクールアカウンタビリティ参加者数とアンケート回答数&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加人数</td> <td>820人</td> <td>840人</td> <td>850人</td> <td>855人</td> </tr> <tr> <td>アンケート回答数</td> <td>43</td> <td>107</td> <td>126</td> <td>243</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;事後アンケートから&gt; ・特色ある教育活動の紹介が「わかった」と回答した割合97.2%</p> <p>・各学校の特色ある取組や学校の熱意、意欲が感じられた。取組も年々向上している。</p>	項 目	H25	H26	H27	H28	参加人数	820人	840人	850人	855人	アンケート回答数	43	107	126	243
項 目	H25	H26	H27	H28												
参加人数	820人	840人	850人	855人												
アンケート回答数	43	107	126	243												



・見附市の学校が地域や小中の連携に取り組んでいることなど知らないことがたくさんありました。保育園も小学校につながっているので、親として安心して預けることができます。

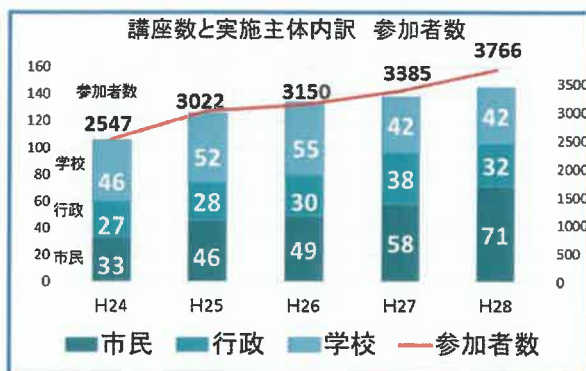
2 「わくわく体験塾」

夏季休業中に学校、市民、行政等が学校、学年の枠を超えた様々な体験活動の場を提供します。参加児童生徒は、わくわく、どきどきする感動体験を得ることで、学ぶ意欲や社会性などが育まれています。

【成果】

＜H28 わくわく体験塾の講座数と参加者数＞

平成17年度から実施し、学校・行政だけでなく、市内で活動している市民団体・個人も講座の開設と運営に参加いただいています。平成28年度は、講座数、参加者数とも過去最高でした。また、市民による講座数も71講座（昨年度比+13）と過去最高でした。市民総がかりの教育の機運の盛り上がりは、具体的な取組として表れていると考えます。



3 「土曜子ども科学教室」

子どもの土曜日の体験活動の充実を図るため、わくわく体験塾の土曜版、「土曜子ども科学教室」を企画、実施しました。

講座名	実施回数等	参加者数 (延べ)	備考
ふしぎ発見！科学教室	9/10-9/11	167人 (前年比-18人)	保護者57人を含む
土曜子ども科学教室	5回	29人 (前年比-30人)	保護者9人を含む

【成果】 科学の不思議にふれる機会となっており、参加している児童は毎回楽しみにしています。「土曜子ども科学教室」の実施は、科学好きの子どもを育てる貴重な体験の場になっています。参加者が増えるよう案内の仕方を検討していきたいと考えています。

今後の方針等

今後も教職員、保護者、市民等が見附の子どもたちの育ちについて共に考える機会として、「教育の日」「スクールアカウンタビリティ」に工夫・改善を加えて実施していきます。

また、学校、地域住民、行政等がそれぞれの役割を果たしながら、連携・協力して子どもの健やかな育ちにかかわる協働の取組として、夏季休業中の「わくわく体験塾」及び「土曜子ども科学教室」の体験活動等の充実を図っていきます。

評価委員の意見

スクールアカウンタビリティは見附独自の事業であり、各校それぞれ発表を工夫し、一般市民に判りやすく紹介している。市の取り組みとしてしっかり位置付けられているが、保護者以外の参加を促していただきたい。

「わくわく体験塾」の市民による開設講座が増えていることは、市民の理解も深まってきて、関心も高まり大変素晴らしい取組である。今後は郊外地域での実施や土曜塾にも繋げて行っていただきたい。

## 伝統文化の継承

<p>&lt;主要施策&gt; (2) 見附の宝・誇りとしての耳取遺跡の保存活用</p>	<p>評 価</p>
<p>&lt;主要事業&gt; ① 耳取遺跡の追加確認調査 ② 耳取遺跡保存活用計画の策定</p>	<p>B</p>

<p>目的</p>	<p>市内に数多く残っている文化財について広く市民に周知し、その価値・魅力を認識してもらうことで郷土への愛着を醸成する。</p>
<p>目標</p>	<p>耳取遺跡に関して発掘調査によって得られた成果から遺跡の持つ価値を伝えるとともに、今後の活用について市民に情報発信を行い、保護の意識を高める。</p>
<p>執行の状況及び成果</p>	<p><b>1 耳取遺跡の追加確認調査</b></p> <p>これまでの調査では未解明であった縄文時代晩期の集落について、内容をより詳細に把握することを目的として追加の発掘調査を行いました。(調査期間 H28. 5. 16～11. 17)</p> <p><b>【成果】</b></p> <p>この発掘調査によって、多くの掘立柱建物跡を確認し、縄文時代晩期の集落はそれらが中央広場を取り囲む形で配置されたムラであったことが確認されました。耳取遺跡の縄文時代晩期集落の様相が一段と明確になり、耳取遺跡の価値をさらに高めることができました。縄文時代晩期集落の様相が詳細に把握できた例は北陸地方では極めて少なく貴重な調査事例となりました。</p> <div data-bbox="813 1496 1407 1890" data-label="Image"> </div> <p>平成28年8月7日開催の現地説明会</p> <p>また、発掘された状況を実際に現地で解説する現地説明会には市内外から 101 人の参加者があり、多くの人に耳取遺跡の価値を伝えることができました。</p>

<p>執行の状況及び成果</p>	<p><b>2 耳取遺跡保存活用計画の策定</b></p> <p>多くの市民から活用される史跡を目指し、将来にわたる史跡の保護活用に関する計画の策定を進めるため、下記の事業を行いました。</p> <p>○市民ワークショップ（3回開催）</p> <p>一般市民の目線で史跡の将来像、活用の方向性を考え、今後の計画の参考とするため、地元住民を中心とした市民委員による耳取遺跡保存活用ワークショップを開催し、意見を出し合ってもらいました。</p> <p>○保存活用計画策定委員会</p> <p>保存活用計画を策定するにあたり考古学専門家のほか、自然体験の専門家、学校教育関係、コミュニティや一般市民からなる策定委員会を開催しました。</p> <p>（28年度1回開催、29年度に3回開催し、策定予定）</p> <p>○自然環境調査</p> <p>これからの史跡の活用のための基礎資料として自然環境調査を行い、史跡指定地およびその周辺地域にどのような動植物が生息しているか確認を行いました。</p> <p><b>【成果】</b></p> <p>ワークショップでは今後の活用に関する様々な意見が出され、森や里山を楽しむ、歴史を学び体験する方向性が示されました。このワークショップで取りまとめた意見を計画策定会に報告し、その意見を踏まえ、策定委員会では各専門分野および地元住民、一般市民の立場から活用に関する基本計画・構想を策定することとしました。</p> <p>自然環境調査については、史跡の周辺地域から稀少種を含む多くの動植物を確認することができました。これによって耳取遺跡の周辺には非常に恵まれた自然環境が残されていることを確認でき、今後の史跡を活用していくうえでも有用な資料を得ることができました。</p>
<p>今後の方針等</p>	<p>耳取遺跡については遺跡の内容を周知し、史跡の持つ価値について理解してもらうとともに、今後の保存活用に関する情報発信も継続的に行うことで、興味関心を持続していくための事業を展開します。また、保存活用計画の策定を進めるとともに、計画にのっとった活用事業を展開し、市民と遺跡との関わりを強めていきます。</p>
<p>評価委員の意</p>	<p>耳取遺跡がどのように活用され事業が展開されるのか期待している。そのためにも市民及び市内外への情報発信を工夫していただきたい。</p> <p>また、保存活用計画の策定については教育活動の資料、観光資源、環境保護など史跡の将来像と活用の方向性を明確にしていくことが必要である。</p> <p>まずは、遺跡周辺を散策できるよう里道等を整備し、地域の史跡として親しむことができるようにしていただきたい。</p>

